

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

## No.22 JET-ALTによる英語劇指導

実施時期：昭和54年～現在

任用団体名：石川県

### 取組のポイント

- 生徒の英語コミュニケーション能力を高める取組として、石川県高等学校文化連盟英語部（高文連英語部）では、各種大会を開催。
- その中でも年2回実施する英語劇大会に向けた練習の中で、JET-ALTが生徒のサポートに大きく貢献。

### 任用団体の基本情報

人口：1,112,528人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：（ALT）44人（CIR）0人（SEA）0人

学校数：中学校1校、高等学校43校、特別支援学校9校

### 取組の背景・課題

高文連英語部は、6月の石川県高等学校総合文化祭イングリッシュフェスティバルにおいて、10分間のステージパフォーマンスの大会を開催、また11月の英語劇発表会において、15分間の英語劇の大会を開催している。この2つの大会は石川県では高文連英語部創部当時より続く活動で、各学校の英語部の活動の中心として根付いている。

これらの大会への参加にあたって、各校において綿密な準備、練習が行われている中で、JET-ALTが生徒のサポートに大きく貢献している。

### 取組の内容

各参加校のJET-ALTは、英語劇の脚本作り、台詞の発音・イントネーションの矯正、演技練習において、英語部員のサポートを行っている。

特に、英語劇の脚本を作成する過程でのJET-ALTの指導は、生徒がより自然な英語表現を学ぶのに大きな役割を果たしている。生徒は日本語でシナリオを書いてそれを訳すことが多いため、自然なやり取りにならなかったり、文化的に外国人が理解できず、伝わりづらくなってしまふことがよくある。そのような際に、JET-ALTが、外国の文化に沿った自然な表現を指導するなど、生徒による脚本のブラッシュアップをサポートしている。

以下、英語劇発表会、イングリッシュフェスティバルでの指導の現状について紹介する。

英語劇発表会では、各校15分の持ち時間で、既成のものからオリジナル劇に至るまで様々なジャンルにわたる劇を発表する。近年はほとんどがオリジナル劇で、音楽やダンスが織り交ざったミュージカル風の劇を演じる学校もあれば、サスペンス系で観客が探偵になって楽しめる劇を上演する学校もあり、学校の特色がよく出て楽しい大会となっている。最近では、高校生の視点から社会の問題をとらえ、言葉に

## 取組の内容（続き）

よるスピーチではなく劇の形で訴えかけるメッセージ性の高いものが増えてきている。より自然なイントネーションや、正しい発音で台詞をいうことができるように、JET-ALTが各学校で言語面からの指導を行っている。

イングリッシュフェスティバルは10分の制限時間で英語を使ってステージで発表を行う。近年はほとんどの参加校が英語劇発表会のミニ版と捉えて英語劇を発表している。劇を発表することが難しい場合には、プレゼンテーションや人形劇、ダンス、合唱を発表する学校もあり、各校の事情に合わせて英語を使って楽しく発表できる場となっている。

JET-ALTは毎日の練習に生徒と一緒に参加して、生徒達の英語力や演技力の向上に助言を与えてくれており、なくてはならない存在である。



劇中で歌を歌っている様子



ミステリーの劇で推理を披露している様子

## 取組の成果・今後の展望

JET-ALTは、英語劇の練習を通して、日本人の生徒が、通常の英語の授業では学ぶ機会があまりない、英語圏の文化、英語の言い回し、自然な発音やイントネーション、ジェスチャーや豊かな表現の仕方を教えてくれる。英語部に所属する生徒の多くが、授業の中ではなかなか学ぶことができない表現を身につけることができている。

高文連英語部では、今回紹介した英語劇を発表する大会以外にも、スピーチコンテスト、ディベート大会、暗唱コンテストも開催している。スピーチコンテストにおいても、原稿作成の段階から発音指導に至るまで、またディベート大会では、外国の資料探しの方法や立論作りの手助け、即興的なやり取りの練習、そして暗唱コンテストでは正しい発音を身につけるための徹底した発音指導など、JET-ALTの協力があってこそ生徒たちはより大きな学びを実現できている。

これからもJET-ALTの協力を得ながら、生徒の英語力を高めていくための場となる各種大会を開催していきたい。

## 問合せ先

担当部署名：石川県高等学校文化連盟英語部事務局

MAIL：keiko\_m@ishikawa-c.ed.jp